

# CSRマネジメント

## CSRの基本的な考え方

アンリツグループは、「誠と和と意欲」を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、事業活動によるCSRを通して、経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値の向上をつねに目指しています。

### 2020VISION

#### 1 Global Market Leaderになる

- アンリツらしい価値創造
- ワールドクラスの強靱な利益体質の実現

#### 2 事業創発で新事業を生み出す

- 新しい分野でアンリツの先進性を発揮

### アンリツグループのCSR達成像

#### 達成像 1

#### 安全・安心で快適な社会構築への貢献

1. お客さまへのサービス
2. 社会課題の解決
3. 社会要請への対応

#### 達成像 2

#### グローバル経済社会との調和

4. コンプライアンス定着
5. リスクマネジメントの推進
6. サプライチェーンマネジメント
7. 人権の尊重と多様性の推進
8. 人財育成
9. 労働安全衛生
10. 社会貢献活動の推進

#### 達成像 3

#### 地球環境保護の推進

11. 環境経営の推進

#### 達成像 4

#### コミュニケーションの推進

12. ステークホルダーとのコミュニケーション

## CSR推進体制

2004年に発足したCSR推進委員会では、社長が委員長を務め、経営トップ自らがCSR活動を推進していました。また、多岐にわたる部門の取り組みを統一的に推進するために、専任部門としてCSR推進室を組織しました。2016年4月より、CSR

(ESG)の課題は経営の重点項目の一つとして、経営戦略会議において審議する体制としました。

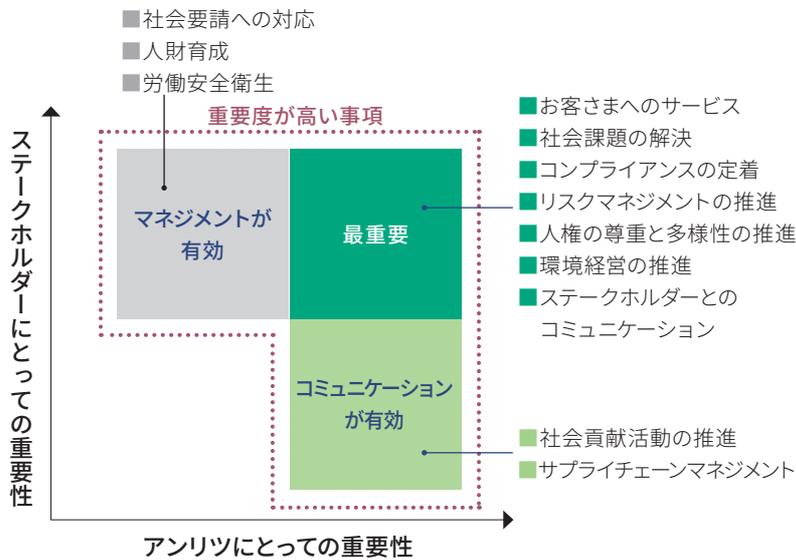
現在はコーポレートコミュニケーション部CSR・CS推進チームが、経営戦略会議の方針のもとアンリツのCSR活動を推進しています。実効性ある活動を進めるた

めに、CS、品質、人権、社会貢献など、CSRの各領域を主管するアンリツ(株)の担当部門を中心に、グループ会社と横断的な連携をとり、活動を推進しています。各領域についてCSRの視点で現状を把握・分析し、今後対処すべき課題を各主管部門が取り組んでいます。

## Anritsu アンリツグループ



## マテリアリティ



アンリツは、客観性と網羅性に配慮し、ステークホルダーごとに分類した社会から要請される142項目について、社内のキーパーソンへのヒアリングなどを通じて重要性測定を行いました。この結果、142項目のうち特に重要性が高いと識別された12項目を、アンリツにとっての重要課題と捉えました。また、国連が掲げる「持続可能な開発目標 (SDGs)」を社会課題と捉え、事業を通じて積極的に貢献してまいります。



株式会社アイディアシップ 代表取締役  
後藤 大介様

### “社会課題解決に向けて、事業とリンクした中長期の目標設定に期待”

アンリツのCSR重要課題は、ステークホルダーとアンリツの関係性を丁寧に分析し、社会的責任に十分に配慮した内容となっています。社会の多様化が加速するなか、本業が社会に与える影響を踏まえ、マテリアリティを見直す時期にきているのかもしれませんが、特にアンリツに大きな期待を持ち、影響が大きいステークホルダーと能動的に対話を重ねることが重要です。

近年では国連がSDGsを掲げ、企業もその責任を果たすことが求められています。SDGsの達成年度に設定された2030年に向けて、アンリツの中長期の経営計画に反映させるための材料と捉えるべきでしょう。

## 4つの達成像の実現に向けたアプローチ

### アンリツグループのアプローチ

### 関連する達成像

#### Social

アンリツグループは、時代の変化に適応した革新的な商品やサポートを継続的に提供することで、世界中のお客さまに信頼され、グローバルに選ばれ続けるブランドになりたいと考えています。人々の暮らしや安全に役立つ製品を提供するとともに、グローバルに事業活動を行うことによる、社会的影響を認識し、ステークホルダーとの関わりをなかで、サステナビリティに配慮した事業活動を行っていきます。

達成像  
1

お客さまへのサービス、社会課題の解決、社会要請への対応

達成像  
2

サプライチェーンマネジメント、人権の尊重と多様性の推進、人財育成、労働安全衛生、社会貢献活動の推進

達成像  
4

ステークホルダーとのコミュニケーション

#### Environment

地球環境保護は、気候変動問題などの世界の課題を解決するための重要なテーマです。アンリツグループ環境理念のもと、バリューチェーン全体に及ぶグローバルな環境経営の推進を通じて、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

達成像  
3

環境経営の推進

#### Governance

アンリツグループは、企業の社会的責任を強く自覚し、倫理・法令遵守はもちろん、社会的要請に適応した健全で誠実な行動を推進します。また、経営に影響を及ぼすリスクを適切に管理することで、企業価値向上を図り、持続的発展を目指します。

達成像  
2

コンプライアンスの定着  
リスクマネジメントの推進

Social

達成像  
1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

中期目標	重要課題	中期経営計画2017
	お客さまへのサービス	グローバルで、お客さまから信頼され、選ばれるブランドになる
	社会課題の解決	グローバル推進体制の確立
	社会要請への対応	事業による社会的課題解決を評価するKPIの策定と目標設定

持続可能な社会の実現に向け、社会とお客さまのネットワーク課題を解決

アンリツは120年以上にわたって激動するネットワーク社会の進化に対し、先進の計測技術で応えてきました。これからも、「いつでも、どこでも、安全、安心、快適につながる」社会構築に貢献していきます。また、国連グローバル・コンパクトへの賛同やSDGsなどのグローバルな社会要請に対し、事業を通じて貢献してまいります。

便利で快適な社会の実現に貢献

5Gにみられるモバイルブロードバンドサービスの進化や、あらゆるモノがつながるIoT社会が到来しつつあります。これらの技術は、自動車の自動運転や、家庭内のさまざまなモノを監視・操作することによる犯罪の防止・お年寄りの見守り、遠隔医療など、あらゆる分野での応用が期待されており、通信事業者にとどまらず、自動車や家電製品のメーカーなど幅広いプレーヤーが次世代の通信技術開発に取り組み、新たな社会価値の創造を目指しています。

アンリツは、無線通信における確かな技術と長年培った有線の測定技術をもとに、お客さまと連携して研究開発に不可欠なテストソリューションの構築に取り組み、データ通信量の増大や高速化を支えるネットワーク・インフラの構築などにおいて独自の技術力を発揮することで、いつでも、どこでも、安全・安心、快適につながる社会の実現に貢献しています。



食の安全・安心に貢献

世界的な人口の増加が進むなか、食品包装の業界では食品を長期に保存できるアルミ蒸着包装や、消費する分だけ開封できる小袋包装の研究開発が進んでいます。このような新しい包装技術は、食品ロスを軽減できる優れた価値を有する一方で、これまでの目視やカメラでの検査が困難になるほか、一度に大量の商品を包装・検査する必要が生じるなど品質保証について新たな課題を投げかけました。

アンリツインフィビスは、不透明包装でも異物や包装不良を高精度に検査できるX線検査機や、同時に最大12列の質量検査ができる複連用重量選別機など、包装技術の進化に適応した製品の提供を通じて、食品ロスを軽減する包装の普及に貢献しています。



お客さま満足の追求

‘envision : ensure’、アンリツは、時代の変化に適応した革新的な商品やサポートを継続的に提供することで、世界中のお客さまから不可欠な存在になる。この‘envision : ensure’の実現に向けて、「あらゆる国・地域で、お客さまから信頼され、選ばれ続けるブランドになる」ことを、2020年にCSの目指す姿として掲げました。グローバルで、お客さまとのコミュニケーションを通じて、お客さまの事業課題とアンリツが提供すべき価値の形を共有し、アンリツらしい商品やサポートによりお客さまの事業に貢献し続けることで、お客さまに信頼され、グローバルで選ばれ続けるブランドになりたいと考えています。

**品質方針**

▶ 顧客と社会に満足される製品を誠と和と意欲をもって造る。

**品質方針に関する行動指針**

- ▶ 不具合品を出さぬよう、仕事に誠心誠意取り組む。
- ▶ 後工程はお客さま。全体の調和を配慮し行動する。
- ▶ 意欲をもって、改善提案する。

## Social

達成像  
2

### グローバル経済社会との調和

#### 中期目標

重要課題	中期経営計画2017
サプライチェーンマネジメント	CSR調達戦略のPDCA展開、SCM全体でのBCP体制の確立
人権の尊重と多様性の推進・人財育成	人権デューデリジェンス 採用の多様化と評価・処遇制度の見直し
労働安全衛生	災害発生ゼロの実現
社会貢献活動の推進	主要グローバル拠点における社会貢献活動の推進

#### グローバル・バリューチェーン

事業活動の上流から下流に至るまで、強力なバリューチェーン体制がアンリツの事業活動を支えています。取引先さまとともに成長して社会課題の解決に取り組む一方、販売フェーズではコンプライアンスを強化して、厳格な手続きを実行しています。これらのバリューチェーンを災害時でも維持できるよう、BCPの取り組みを着実に強化しています。

#### グローバル体制の充実

アンリツグループはグローバルでのCSR活動を推進し、全世界のステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを深めるために各リージョンの体制を定め、年間スケジュールに基づく情報交換を進めています。

下記の10項目について毎年、年度総括が各リージョン担当から本社CSR・CS推進チームに報告されます。

#### 活動項目

- CS Activities
- Quality Improvement
- Health and Safety
- Compliance
- Supply Chain
- Information Security
- Protecting Human Rights
- Valuing Employees
- Promotion of Environmental Management
- Conducting Social Contribution Activities

また、事業のグローバル化に伴い、事業部門や管理部門各部の連携がこれまで以上に求められています。厚木本社、郡山、米州、欧州、アジアの主要拠点を結んだグローバル会議を、定期・不定期に開催しています。

#### グローバルSCM体制の構築

アンリツは、グローバルに取引先さまとさまざまな活動で連携することで、より強固なパートナーシップを構築し、関係する法律や商習慣、社会規範を遵守することを基本に、サプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていくよう努めています。

アンリツは、主に米国、中国、日本に調達拠点を構えており、部品の採用における公平な評価基準をグローバルで統一化する活動を進めています。

また、グループ企業全体で共通して取引できる取引先さまを、グローバル推奨サプライヤ(Global Preferred Supplier)として相互認定し、取引先さまと開発ロードマップや技術的課題を共有することで、製品開発のTTM(Time To Market)短縮を実現していきます。

また、CSR調達の状況を確認する「CSRアンケート」による調査を主要サプライヤ97社に実施し、良好な結果を確認しています。



CSRアジア 東京事務所 日本代表  
赤羽 真紀子様

#### “取引先とのさらなるコミュニケーションの強化と透明性の一層の向上に期待”

アジアの企業は、困難を乗り越えて確固たる信頼関係を構築すると、非常に頼れる存在となります。アンリツが長い時間をかけて地道に取引先とコミュニケーションを続け、強力なパートナーシップを構築していることは高く評価できる点であり、社会に高い価値を提供していくために、これからも取り組みを継続してほしいと思います。

アンリツは、グローバルSCMにおいて、すでに高いレベルで取り組みを行っています。今後は、グローバル企業として、定量的な情報に加えてより具体的な活動内容を国内外に発信し、これまで以上に透明性を向上させてほしいと考えています。

## Social

達成像  
2

## グローバル経済社会との調和

## バリューチェーンでの人権への配慮

アンリツグループは、国連グローバル・コンパクトをはじめとする、人権に関する国際規範に基づいて、社内規範となる「企業行動憲章」、「行動規範」を制定し、「人権尊重」および児童労働、強制労働を認めない方針を明確にしてCSR経営に取り組んできました。

すべての人々の人権を尊重し、人種、性別等による差別的扱いや、個人の尊厳を損なう行為を行いません。また、児童労働、強制労働を認めません。

(アンリツグループ企業行動憲章より抜粋)

私達は、人間尊重の立場に立って、すべての人の基本的人権を尊重し、人種、国籍、宗教、信条、性別、年齢、身分、心身障害等による偏見と差別を行いません。

(アンリツグループ行動規範より抜粋)

「人権課題への対応」をCSR戦略課題の一つとして設定し、関連部門が参加する横断的なワーキング・グループを立ち上げて、グローバルでの人権デューデリジェンスの実施を計画しています。

人権リスクについては、グローバルな取引先さまに「アンリツグループCSR調達ガイドライン」を配布し、理解を求めるとともに、CSR調達方針を尊重し取り組みにご賛同いただく同意書を受領しています。また、企業倫理アンケートや相談窓口の利用を通じて、人権に関わる課題の解決や改善に繋げています。

2016年度には、「英国現代奴隷法」(UK Modern Slavery Act 2015)に係るステートメントをアンリツならびにAnritsu EMEA Ltd.が開示し、この中で人権に関するアンリツグループの方針を表明しています。2017年度には、サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスの実施を目指すとしています。

## 女性活躍推進

アンリツは、生活の充実と自らのキャリア形成を追求することができる、安全・安心で快適な職場環境を築き上げることを重視しています。女性の活躍促進については、出産・育児の前後における休暇・休業・職場復帰制度、時短勤務制度等の諸制度を設ける等、仕事と育児の両立支援に向けた職場環境の整備に積極的に取り組んでいます。

## 女性活躍推進計画の実施策

アンリツは、2015年8月に成立した女性活躍推進法に則り、厚生労働省の女性活躍推進企業のデータベースに自社の女性の活躍状況を公表しています。2020年に新卒採用者に占める女性割合を20%以上とする目標をたて、達成すべく環境整備を実施しました。その結果、2016年度の新卒採用者に占める女性の割合は約30%となりました。また、女性社員や管理職の生の声を聴き、女性が教育や両立支援等の制度を利用しやすい職場環境の整備に努めています。2017年度には、新たに女性キャリア形成支援の研修プログラムを実施する予定です。

## 社会貢献活動の推進

アンリツは事業活動を通じて社会に貢献するとともに、地域の発展に寄与する活動を推進しています。「青少年教育との連携」、「地域社会への貢献」、「環境推進活動(生物多様性保全)」を3本柱とした地域密着型の社会貢献活動を軸に、社員が主体的に参画する活動を継続的に展開しています。

2016年度は、神奈川県主催の「かながわサイエンスサマー」事業の一環として、小学生を対象に「わくわく体験教室」“みんなでラジオを作ってみよう!”を開催しました。



## 労働安全衛生の推進

アンリツは、企業行動憲章で「従業員の尊重」を掲げています。社員一人ひとりが、その資質を最大限に発揮できるよう、社員の健康と安全を第一に、快適で働きやすい職場や環境づくりを進めていくことが重要と考えています。

国内アンリツグループでは、労働安全衛生法に基づく安全衛生管理体制を確立しており、施行令や細則においても、逸脱することなく遵守しています。さらにアンリツ(株)健康管理室に所属する産業医、産業カウンセラーを中心とする産業保健スタッフが、定期的な職場巡視や定期検診後の事後処置、リフレッシュトークやアドバイス等、グループ社員の健康確保や増進に向けたさまざまな取り組みや支援活動を行っています。



経済人コーポレート会議 日本委員会 ディレクター  
山口 俊宗様

## “ステークホルダー視点の取り組みと情報開示が重要”

人権に関わる取り組みは、経営の質をいかに向上させていくかという課題に直結します。アンリツのこれまでの取り組みや事業特性を踏まえると、人権に関わる問題が経営を大きく揺るがすようなリスクに直結した経験はまだ無いかもしれません。しかし人権リスクが無いと言い切ることはできません。

今後は、グローバルな報告基準や投資家向けのベンチマークを念頭に置き、アンリツの事業がステークホルダーにどのようなインパクトを与えているのかという視点で、方針を策定し、活動のPDCAを回していったらいいと思います。情報開示・発信は非常に重要です。透明性をさらに向上させ、アンリツの本気度を社内外に示していくことを期待しています。

## Social

達成像  
4

### コミュニケーションの推進

中期目標

重要課題

中期経営計画2017

ステークホルダーとのコミュニケーション 統合思考に基づくコミュニケーションの確立  
GRIに準拠したサステナビリティ情報の継続的な開示

### ステークホルダーとのコミュニケーション

アンリツは事業活動全体を通じて、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

#### 各種展示会への参加

お客さまをはじめ、多くのステークホルダーの皆さまに当社の製品を紹介する各種展示会に積極的に参加しています。

世界最大級の携帯通信技術の展示会 Mobile World Congress 2017や、光通信とネットワーク技術のグローバルカンファレンス Optical Fiber Communication Conference (OFC)、国際食品工業展「FOOMA JAPAN 2017」などに出展しています。



#### 機関投資家とのコミュニケーション

アンリツは、事業構造や収益を創出する仕組み、業績に影響を与える要因を株主・投資家の皆さまに正しくご理解いただくことを意識しながら、IR活動を実施しています。

これらのIR活動には、経営層が積極的に参加しております。国内外機関投資家との個別面談は、当社から投資家に積極的にアプローチしており、2016年度は、

国内投資家215件、海外投資家94件の面談を実施しました。海外投資家に向けたIR活動として、国内でのカンファレンスに3回参加しました。

また、四半期ごとに株主・投資家の皆さまに向けた決算説明会を開催しコミュニケーションを図っています。



#### NGO/NPOとの関わり

アンリツでは、東北アンリツ(株)の所在地でもある福島県を支援したいという考えの下、東日本大震災復興支援活動の一助となることを願い、有志による支援金の募集を2016年12月に実施しました。集められた支援金は、認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)へ寄付され、JPFが審査・認定した福島県の被災者支援事業を行う団体に対する助成金として使われています。



東北アンリツ第二工場(郡山市)

#### 社外からの評価

非財務分野への取り組みにおいて、外部評価機関から高い評価を受けています。

モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)の構成銘柄に選定

(2017年6月30日現在)



アジアで最も持続可能な企業100社



SNAMサステナビリティ・インデックス



健康経営優良法人2017(ホワイト500)に認定



環境コミュニケーション大賞で優良賞を受賞



Environment

達成像  
3

地球環境保護の推進

中期目標	重要課題	中期経営計画2017
環境経営の推進		<b>総エネルギー使用量</b> 2015年3月期比3%以上削減(グローバルアンリツグループ)
		<b>水使用量</b> 2015年3月期比3%以上削減(グローバルアンリツグループ)
		<b>環境配慮型製品の開発</b> 対象製品の全てを環境配慮型製品にする

環境経営の推進

アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。バリューチェーン全体に及ぶ環境経営をグローバルに推進しています。

アンリツの環境経営

アンリツは、グローバルに環境経営を展開し、『エコマネジメント』と、一人ひとりの『エコマインド』で、『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコプロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。

エコマネジメント

社会やお客さまの環境負荷低減に貢献するために、事業活動における法規制順守と環境負荷の低減、環境負荷の小さい製品の提供、環境負荷低減に貢献できる製品の提供などに向け、経営者は必要な経営資源を投入し、推進しています。

エコマインド

社員一人ひとりが製品のライフサイクルの一部を担っていることを認識し、業務の中で環境改善を実践し、社会に貢献する良き企業市民になることを目指します。

エコオフィス・エコファクトリー

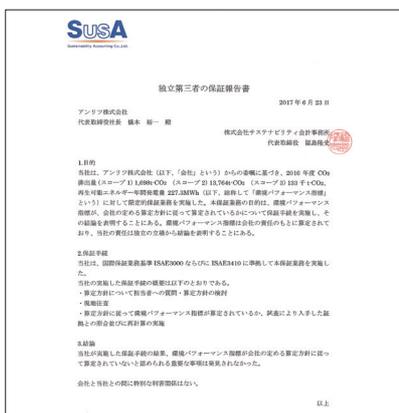
省エネルギー、省資源、3Rを実践して環境負荷低減に努めるとともに、法規制順守と環境汚染リスクの低減を図っています。

エコプロダクツ

省エネルギー、省資源、有害物質削減を製品のライフサイクル全体で配慮するとともに、お客さまの使用環境においても環境改善に貢献できる製品を開発していきます。

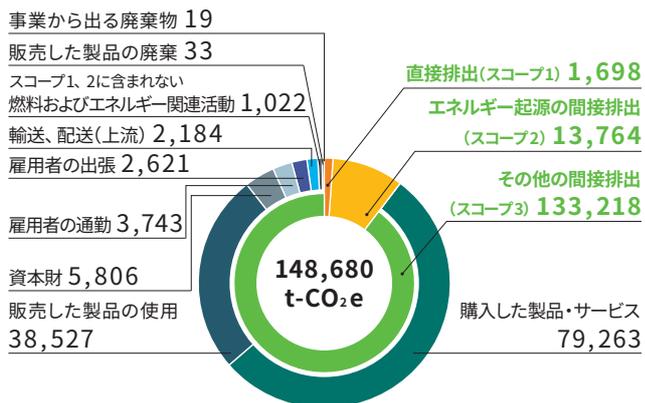
バリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量

アンリツは、バリューチェーン全体で排出した温室効果ガスをGHGプロトコルのスコープ3として算定しています。2016年度の排出実績値についても、第三者検証を受けています。



独立第三者の保証報告書

バリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量



## Governance

達成像  
2

### グローバル経済社会との調和

#### 中期目標

#### 重要課題

#### 中期経営計画2017

コンプライアンスの定着

全社員へのコンプライアンス研修の実施・継続

リスクマネジメントの推進

リスクのグローバル一元管理体制および監査体制の整備

### コンプライアンス推進活動

国内アンリツグループでは、各企業倫理関係部門とグループ会社の代表で構成される企業倫理推進委員会を設置し、国内アンリツグループのコンプライアンス推進活動を企画・支援・実施しています。

各組織は、活動計画に基づき、それぞれが改善活動を実施します。そして、1年後に実施されるアンケートにて効果の確認を行い、コンプライアンス活動の継続的な改善を図っています。

### コンプライアンス推進活動



### 贈収賄防止に向けた取り組み

ビジネスをグローバルに展開するアンリツグループにとって、贈賄等の腐敗を防止することはコンプライアンス上の重要な課題と認識しており、社会要請に適應した健全で誠実な企業行動を推進するため、腐敗防止に取り組んでいます。

2015年度にはアンリツグループの関連部署の部門員およびその他の部署の部門長以上の社員約1,450人(国内約750人、海外約700人)を対象にした贈収賄防止WBT (Web based Training) を実施しました。

また、これまでの「アンリツグループ贈収賄防止方針」を補足する「Anritsu Group Anti-bribery and Corruption Rules」を策定しました。事業活動を行う地域の特性を加味して規程を現地化したうえで、それらの防止活動を地域ごとに行っています。

### 贈収賄防止に関わる

#### これまでの取り組み

- 2012年度** ▶ 「アンリツグループ贈収賄防止方針」を制定、国内・海外アンリツグループへ贈収賄禁止の周知
- 2014年度** ▶ 贈収賄防止WBT (Web based Training) をグローバルで実施
- 2015年度** ▶ 贈収賄防止WBTの継続。Anritsu Group Anti-bribery and Corruption Rulesを策定
- 2016年度** ▶ Anritsu Group Anti-bribery and Corruption Rulesをグローバルで運用開始

### リスクマネジメント推進体制

当社グループは、7つの主要リスクについて、リスクごとに当該専管事項の総括(統括)責任者または担当執行役員がリスク管理責任者を兼任するマネジメント体制を構築しています。リスク管理責任者は、関係部門の責任者およびグループ会社管理責任者で構成する委員会を主管し、当該リスクマネジメントに関わるグループ会社全体を統括するとともに、リスクマネジメントの対策、計画、実施状況および年間を通したマネジメントサイクルの結果を、適時に経営戦略会議に報告しています。

1	経営の意思決定と業務の執行に係るビジネスリスク
2	法令違反リスク
3	環境保全リスク
4	製品・サービスの品質リスク
5	輸出入管理リスク
6	情報セキュリティリスク
7	災害リスク

### 事業継続マネジメント

アンリツでは災害・緊急時の被害最小化と事業活動の早期回復を図り、円滑な事業活動を継続することを目的として、各部門がBCP (事業継続計画) を作成しています。

当社グループの製造拠点である東北アンリツ(株)では、重要なリスクの一つとして地震などの自然災害に対してBCPを策定しています。実際の大規模災害での教訓を受け、より幅広いリスクに備えるとともに、各リスク発生時の対応手順の精緻化を行っています。